

## 弔 辞

久留米大学附設高校同窓会 顧問 大神 甫 様

このたび、大神甫 久留米大学附設高校同窓会 顧問の突然の訃報に接し、同窓会 会員一同、大変な衝撃を受け、つらく悲しい思いに襲われております。大神顧問は、昭和 25 年に修羅道の世を救い、この世に真善美に基づく平和な理想郷を作らんと願って建学された久留米大学附設高校の草創期である第 7 期に入学され、高校卒業後の道は、黒田藩の御殿医であったご先祖の後を継いで医学を志され、久留米大学医学部、山口県立医科大学に合格されましたが、諸般の事情により、西南大学商学部に進学なさいました。卒業後も医療業務への思いは絶ちがたく、調剤薬局を開設され、今では九州はもとより関東、関西、沖縄に 34 店舗を展開されるまでに至りました。

お人柄は、親分肌で豪胆かつ大変包容力がありました。加えてユーモアのある方でしたので、誰からも慕われ、とりわけ母校愛が深いがため、附設高校卒業生には分け隔てなく、愛情深く思いやりをかけて頂きました。どれだけ数多くの後輩たちが、数々の相談に乗って頂き、また空きっ腹を腹一杯にして頂いたことでしょう。誰からも慕われるとともに、心からの尊敬を集めておりました。

また、創設間もなく未熟であった同窓会の発展に尽くされた功績も、言葉に尽くせぬほど大きなものでした。同窓会が現在、確かな発展の軌道を進み始めていますのも、ひとえに大神甫顧問の献身的なご尽力によるものです。小生自身にとりましても、5 年前、久留米大学附設高校同窓会の会長職への就任を強く進めて頂き、就任後も何かと相談に乗って頂くとともに、いつも変わらぬ全面的なバックアップを頂き、大変心強く、任務にあたる事ができておりました。

このたび、お体を壊されましたが、それは身を粉にして仕事に、人様のお世話ごとに、尽くしてこられたからに他なりません。そのために、お命を人の何倍も燃焼させてこられました。奥様に先立たれ、その後はいつも自慢なさっておられましたお嬢様が助けて来られましたが、やはりご不自由はあったかと存じます。様々な艱難辛苦を乗り越えられ、ある意味では、存分にご自身のなさりたいことや、できることはすべてやり尽くされての上の、この度のことであったかとも思われます。

しかしながら、まだまだお元気で私たち久留米大学附設高校同窓生を、明るく元気に励

まし続けて頂きたかった、その思いが離れません。小生自身も残念でなりません。

巨星落ちる。まさにこの言葉通りのご他界でありました。

今後は、大神顧問の深い母校愛と、後輩を思いやる暖かいお心を受け継ぎ、私たち同窓生一同、益々の久留米大学附設高校同窓会が素晴らしい附設高校大ファミリーとなりますよう、母校ならびに、同窓会の発展に寄与してまいりたいと存じます。

大神甫 久留米大学附設高校同窓会顧問、ここに全国1万2千名の同窓生を代表し、心から感謝申し上げ、そのご意志を受け継ぐことを、お誓い申し上げまして、弔辞と致します。

平成 二十七年 五月 十日

久留米大学附設高校同窓会

第5代同窓会長 長谷川房生